

国語科学習指導案

日 時 平成30年6月1日(木) 公開授業 I
学 級 岩手大学教育学部附属中学校
3年C組 40名
会 場 集会室
授業者 中 村 正 成

1 単元名 名訳を選べ！～様々な『故郷』を読み比べる～

2 単元について

(1) 学習者観

- 「卒業ホームラン」では、原作と読み比べることで、登場人物の人物像を捉えるために、一つの言動に固執することなく様々な言動や態度から多面的に判断する必要があることや、他の人物との関わりや他の人物の見方なども人物像を捉える上では大切な視点であることを学んだ。
- 「走れメロス」では、これまでの学習を生かしながら自分たちで学習課題を設定し、メロスやディオニスの心情の移り変わりや最後の場面のもつ効果について考え、人物の設定や表現の効果について学んだ。

(2) 学習材観

中心学習材 『故郷』(竹内好訳) (「新しい国語3年」東京書籍)

補助学習材 『故郷』(駒田信二訳) (「阿Q正伝・藤野先生」講談社)

『故郷』(藤井省三訳) (「故郷・阿Q正伝」光文社)

- 本学習材は、故郷に別れを告げに来た「私」が、幼馴染の「ルントー」と再会し、二人の間でできた壁に悲しみを感じるも、若い「ホンル」や「シュイション」の様子を見て、彼らに希望を託し自分の道を歩いていこうと決意していく、自伝的な小説である。
- 「私」の視点でストーリーが展開している。また、情景描写を巧みに用いながら、登場人物の心情を暗示している。
- 会話文や比喩を用いて登場人物の様子や人柄などを巧みに描写している。
- 中心学習材である竹内版『故郷』は、日本人にも親しみやすいように表現を工夫しているところが見られる。補助学習材である駒田版・藤井版の『故郷』も訳者なりに表現を選んで描写している。例えば、再会の場面、「私」が「ルントー」に話しかける場面は次のような違いがある。

竹内版	私は感激で胸がいっぱいになり、しかしどう口をきいたものやら思案がつかぬままに、一言、 「ああルンちゃん——よく来たね……。」
駒田版	わたしはそのとき、とても興奮したが、どういったらよいかかわからず、ただこういった。 「おお、閩土、——よく来てくれたね……」
藤井版	僕はこのときうれしさのあまり、何と言ってよいのかかわからず、ひとことこう言った。 「わあ！閩兄ちゃん——いらっしやい……」

(3) 学びの本質に迫る指導とその評価について

本校国語科において育成すべき資質・能力を「ことばの力」と設定している。本単元においては育成すべき「ことばの力」を以下の通り示す。

① 「ことばの力」をもとに解釈し、批評する力

学習者はこれまでに心理描写・行動描写・情景描写に着目して登場人物の心情やその変化を捉えたり、様々な場面から多面的に人物像を捉えたりして文学的文章を読んだ。また、伏線のような物

語の仕掛けや人物の設定、表現の工夫といった作者の意図に注目しながら作品を読んだ。本単元ではこれまでの学習を生かして、物語の展開や人物の設定を踏まえて、文章を批評する力を育てる。前述のように『故郷』には、様々な訳者によって翻訳されているが、その表現の仕方によって、読み手の受ける登場人物の人柄や心情が大きく異なる。その表現により、どのように印象が変わるかを対話を通して捉えさせたい。また、翻訳には、訳者の解釈があり、そのフィルターを通して私たち読み手は文章を読んでいることになる。学習者には、訳者がどのように考えてその表現を選んだのかを想像させ、これまでの『故郷』の読みをさらに深めたものにしていきたい。

② 対話を通して創造する力

学習者は、グループでの話し合いの仕方や全体での発表の仕方について、これまでの学習の中で国語科にとどまらず他教科や領域を通して横断的に学習している。最近の国語の学習では主にフリーで話合う機会が多かった。本単元では、単元の前半では学習課題に対する考えを個人でもたせ、それを出し合いながら議論させることで読みを深めさせていきたい。単元の後半では、前半での読みを生かしながら、どの訳者の作品が最も優れているかを様々な表現に着目して各々考えさせ、議論させていきたい。議論を行う際には、自分が選んだ訳者同士でグループを作り、考えを深め、それをプレゼンさせていく。その中で、教師がコーディネートしながら、考えがぶつかる点を見出し、対話させながらその表現の良さに着目させていきたいと考えている。また、単元の前半・後半どちらの議論においても、他者の意見をそのまま鵜呑みにするのではなく、批判的に思考させながらその意見の妥当性を考える力を育てたい。

③ 発信する力

対話を受けて、単元の最後にはどの訳がよいと思うか自分の考えをまとめさせる。議論を生かしながら、自分の読み固执することなく、また、他者の意見も批判的に捉えながらも自分の読みを生かして文章の形でまとめさせたい。そして、自分の考えを文章という形で発信することで、自分の読みが深まっていったことを実感させていきたい。

また、上記のような「ことばの力」を育成するために、以下の手立てを講じることとする。

① 学びの本質に迫る指導

本単元では、様々な『故郷』の翻訳を読み比べることで、表現を批評する力を育てる。『故郷』は様々な訳者から翻訳が出ているが、それぞれ個性があり、表現が大きく異なる。それによって読み手の受ける登場人物の印象が異なったり、物語全体の印象が変わってきたりすることがある。私たちが外国文学を読むとき、訳者の解釈を通して読んでいるということに気付かせ、様々な訳を読み比べることで作品を読み深めることにつながるということを考えさせたい。

第一次では、本文を読み、初発の感想を書くとともに、粗筋を捉える。ここで、学習者の感想が集まる部分や読んだ疑問から学習課題を設定し、第二次前半での解決を図る。生徒の実態から、再会の場面の「ルントー」の心情に関わる部分や、物語後半の「希望」に関する部分が学習課題として設定されるものと予想される。

第二次前半では、第一次で立てた学習課題について考えさせる。ここでの学習活動は、学習材の人物の設定や主題について考えるものである。これらについて考えたことが、第二次後半での訳文の読み比べにつながる。

第二次の後半では、「ルントー」との再会の場面のそれぞれの訳文を読み比べ、どの訳文がよいかを考えていく。それぞれの表現の違いに気付かせるとともに、その表現によって人物の印象がどのように変わるか、また作品全体にどのような影響があるかを考えさせたい。そして、様々な訳文を比較して読むときには、どのような視点をもって読むことが大切かを考えさせ、それをもとに第三次に向けての評価基準を練り上げたい。

第三次では、第二次前半までの学習を生かしながら、物語後半の「希望」に関する部分について訳文を比較する。そして、単元全体を振り返り、外国文学を読んだり訳文を比較したりする面白さを実感させ、これからの読書生活につなげていきたい。

② 学びの本質に迫るための評価

本単元では、第二次における学習課題の解決に向けた学習活動を主に「学びの本質に迫るための評価」の対象とする。第二次では、第一次で設定した学習課題の解決に向けて、グループや全体での交流を通して自分の読みを深めていく。その様子を、学級での議論の様子や学習シートの記述をもとにしながら評価していきたい。

③ 学びの本質に迫ったかを見とる評価

「知識・技能」については、定期テストに問題を位置づけ、その結果を評定に用いる。

「思考力・判断力・表現力」については、第三次に単元のまとめとして、物語の後半の部分について、どの訳がよいかを文章でまとめさせ、その記述を評価するものとする。その際、評価の基準として、第二次の後半で練り上げた評価基準をもとに評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」については、OPPシートの記述を参考に毎時間の記述を蓄積しながら評価していきたい。

3 単元の指導目標及び評価規準

(1) 指導目標

物語の展開や登場人物の設定や行動の意味を考えさせながら様々な『故郷』の訳文を読ませ、表現の特徴に気付かせながらその良さをまとめさせる。

(2) 評価規準 (○学びの本質に迫るための評価 ●学びの本質に迫ったかを見とる評価)

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
① 文章中に登場する様々な語句について、その特徴や語感などを捉え、内容の理解に役立てている。(1)ーイ)	①❶ 物語の展開や人物設定などを踏まえながら、その表現の仕方に対する自分の考えをまとめている。(C-ウ) ②❷ 登場人物の言動の意味を考え、物語の展開や人物設定の仕方について自分の考えをまとめている。(C-ア)	①❶ 表現の仕方に注目して、登場人物の行動や人物設定などを考えながら、その良さについて文章にまとめようとしている。

(3) 単元の指導計画及び評価計画

(○学びの本質に迫るための評価 ●学びの本質に迫ったかを見とる評価)

次	時	学習活動	評価規準	評価の観点		
				知技	思考力	態度
1	1	1. 単元の見通しをもつ。 2. 教科書の『故郷』を読む。 ◇ 人物や粗筋を大まかに捉えながら『故郷』の朗読を聞く。 3. 初発の感想を書く。	態① これまでの学習などを生かしながら『故郷』を読み、疑問などをもちながら初発の感想を書いている。			①
	2	1. 『故郷』の粗筋を捉える。 ◇ 時代背景等も抑えながら、物語の全体を捉える。 2. 今後の学習の見通しをもつ。 ◇ 全体で解決する学習課題を立てる。 ◇ 様々な訳文があることを知る。	知① 文章中に出てくる言葉を抑えて内容の理解に役立てている。 態① 文章中に出てくる言葉について理解を深めようとしている。	①		①
2	3	1. 「私」と「ルントー」を比較しながら人物像を捉える。 ◇ 少年時代、また再会時の両者を比較し、それぞれの人物像や置かれている状況を捉える。	知① 文章中に出てくる言葉を抑えて内容の理解に役立てている。 思② 少年時代や再会時の「私」と「ルントー」の人物像や置かれている状況を、叙述をもとに学習シートにまとめている。	①	②	①

		態① 登場人物の人物像や置かれている状況を、学習シートにまとめようとしている。			
4	<p>1. 「だんな様！・・・」に込められたルントーの思いを考える。</p> <p>◇ なぜ「ルントー」は「だんな様！・・・」と言ったのかを叙述をもとに考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ルントー」の再会時の様子・態度 ・「わたし」の再会時の様子・態度 ・他の登場人物の様子・態度 ・「ルントー」の取り巻く状況 <p>◇ 個人→グループ→全体→個人の順で思考する。</p>	<p>知① 文章中に出てくる言葉を抑えて内容の理解に役立てている。</p> <p>思② 「ルントー」の様子や態度、その取り巻く状況を把握しながら、「だんな様！・・・」に込められた思いを学習シートにまとめている。</p> <p>態① 交流を通して、「だんな様！・・・」に込められた思いを学習シートにまとめようとしている。</p>	①	②	①
5	<p>1. 「私」の考える「希望」とはどのようなものかを考える。</p> <p>◇ 「私」は「希望」が実現可能だと考えているか、叙述をもとに考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「私」はなぜ自分の希望を「手製の偶像にすぎぬ」と考えたのかについて考える。 ・「私」と他の登場人物には、どのような違いがあるかを考える。 ・情景描写に注目する。 <p>◇ 個人→グループ→全体→個人の順で思考する。</p>	<p>知① 文章中に出てくる言葉を抑えて内容の理解に役立てている。</p> <p>思② 後半の叙述や他の登場人物の様子などを参考にしながら、「希望」に対する「私」の考えを学習シートにまとめている。</p> <p>態① 交流を通して、「希望」に対する「私」の考えを学習シートにまとめようとしている。</p>	①	②	①
6	<p>1. 様々な訳の『故郷』の再会の場面を読み、どの訳者の『故郷』が最も優れていると思うか、個人の考えをもつ。</p> <p>◇ 二人の再会の場面を読み比べ、どの訳がよいかを自分なりに考えまとめさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「私」や「ルントー」の言動や様子 <p>2. 同じ訳者を選んだ者同士でグループを作り、その良さを共有し、次時に説明できるようにする。</p>	<p>知① 文章中に出てくる言葉を抑えて、その特徴や語感を踏まえながら内容の理解に役立てている。</p> <p>思① 表現の違いに気付き、優れていると思う訳文を選んでその理由を学習シートにまとめている。</p> <p>態① 交流などを通して、自分の選んだ訳文の良さに気付こうとしている。</p>	①	①	①
7 本 時	<p>1. 全体で、自分たちの選んだ訳の優れているところを説明する。</p> <p>2. 具体的な箇所を取り上げながらなぜ優れているかを討議する。</p> <p>3. 訳文の良さを考える上で抑えたい視点（批評の視点）を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすいか ・登場人物の設定に関係するか ・主題に関係するか <p>4. 個人の考えをまとめる。</p> <p>◇ 最終的にどの『故郷』がよいかを自分なりに決定させる。</p>	<p>知① 文章中に出てくる言葉を抑えて、その特徴や語感を踏まえながら内容の理解に役立てている。</p> <p>思① 討議を通して、物語の展開や人物の設定などと関連付けながら、優れていると思う訳文を選んでその理由を学習シートにまとめている。</p> <p>態① 交流を通して様々な訳文の表現の仕方に対する自分の考えをまとめようとしている。</p>	①	①	①

3	8	1. 『故郷』の最後の場面の様々な訳文を読み、どの訳文がよいと思うか批評し文章にまとめる。 ◇ 前時の学習を活かして、他の文章を比較し批評させる。	知① 文章中に出てくる言葉を抑えて、その特徴や語感を踏まえながら内容の理解に役立てている。 思① 批評の視点をもとに訳文を読み比べ、どの訳文がよいかを根拠をもって学習シートにまとめている。 態① 批評の視点をもとにしながらどの訳文がよいかを学習シートにまとめている。	①	①	①
	9	1. まとめた文章を互いに評価する。 ◇ 前時に確認した、批評の視点をもとに、互いの文章を評価させる。 2. 単元を振り返る。	知① 文章中に出てくる言葉を抑えて、その特徴や語感を踏まえながら内容の理解に役立てている。 思① 互いの訳文への批評の文を読み、批評の視点をもとにしながら評価している。 態① 交流を通して、それぞれの訳文の良さに気付こうとしている。	①	①	①
学習事項の活用場面	◇ 他の作品を読むときに、本時で学習した読みの視点をういながら読む。					

4 本時について

(1) 主題

物語の展開や人物設定などに注目しながら文章の表現の仕方について批評する。

(2) 指導目標

物語の展開や人物設定などを踏まえて、表現の仕方を批評させる。

(3) 評価規準

【思考力、判断力、表現力等】

- ① 討論を通して、物語の展開や人物の設定などに関連付けながら、優れていると思う訳文を選んでその理由を学習シートにまとめている。(C-U)

【知識及び技能】

- ① 文章中に出てくる言葉を抑えて、その特徴や語感を踏まえながら内容の理解に役立てている。
((1) -イ)

【主体的に学習に取り組む態度】

- ① 交流を通して様々な訳文の表現の仕方に対する自分の考えをまとめようとしている。

(4) 指導及び評価の構想

① 本時の指導について

これまでに、生徒は『故郷』の粗筋、「わたし」と対役である「ルントー」の人物像や置かれている状況を捉え、ルントーがなぜ再会の場面で「だんな様!・・・」と発したのか、また、物語後半を通して筆者が伝えたかったことを考えた。これらを踏まえ、前時では『故郷』が様々な訳者によって翻訳されていることを示し、その訳し方の違いに気付かせながら個人でどの訳文が物語の上で最も優れているかを考えさせた。そして、同じ訳者を選んだ者同士でグループを作らせ、本時に自分たちの選んだ訳文の良さを説明できるように準備させた。本時はグループで考えたものを全体で共有し、小説の表現を批評する視点を捉える時間である。

導入では、学習課題と共に、前時にグループで確認した訳文の良さを確認する。

展開では、まずグループから自分たちが選んだ訳文の良さについて説明をさせる。そして、その説明内容に対して討議をし、その訳文の表現に隠された意図やねらいを考えさせる。教師はそれをコーディネートしながら、物語の表現の仕方を批評する視点を整理していく。訳文の良さを考えさせると、分かりやすいかどうかで選ぶ学習者が多いが、その表現・描写が人物の設定に関わったり、また主題に関わったりするという点に気づかせていきたい。

終結では、グループ交流や全体交流を通して、自分自身はどの訳が最も優れていると考えるか、改めて自分の考えをまとめさせる。振り返りでは、様々な訳文に触れることで、これまでの読みからどのような読みが加わったかを振り返らせたい。

なお、本時で確認された批評の視点は、そのまま第三次の学習活動である『故郷』の最後の場面を批評する学習活動に用いられる。本時では第三次における評価基準を練り上げる1時間と位置付けることができる。第三次では、学習者がこの評価基準を意識しながら学習活動を展開し、また振り返る材料として用いていきたいと考えている。

② 本時の評価について

前述のように本時は、これまでの個人での学びを全体で共有しながら、批評の視点を学ぶ一時間となる。本時の評価は、本時を通して学習者が批評の視点に気づき、それをもとにして終末で自分の考えを深めたり改めたりすることができたかを学習シートの記述をもとに見とっていきたい。ここでは、どのような批評の視点に基づいて自分がその訳文が優れていると判断しているかをフィードバックしていきたい。なお、第三次にも用いられるが、本時の評価基準は以下の通りとなる。

評点	「ことばの力」の評価
	訳文を批評する視点
3－とてもよい	・着目した表現や描写を、物語の主題に結び付け、根拠を明らかにしながら良さを述べている。
2－よい	・着目した表現や描写を、物語に登場する人物の設定に結び付け、根拠を明らかにしながら良さを述べている。
1－不十分	・着目した表現や描写を、読み手の分かりやすさのみに結び付け、良さを述べている。

(5) 本時の展開

段階	学習活動および学習内容	時間	指導上の留意点及び評価 ・学びの本質に関わる指導の手立て ○学びの本質に迫るための評価 ●学びの本質に迫ったかを見とる評価
導入	1. 前時までの学習を振り返る。 2. 本時の学習課題を確認し学習の見通しをもつ。	5	
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 【学習課題】 どの訳者の『故郷』が最も優れているか </div> 3. 自分たちのグループの説明する内容を確認する。	3	

展 開	4. 各グループから自分たちが選んだ訳の良さを発表し、気になる部分を取り上げて討議する。	25	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの考えと比べさせながら、他の考え方を批判的に捉えさせ、質問を考えさせる。 考えがぶつかっているところを取り上げ、それについて議論することで読みを広げていく。 質問に受け答えすることで、自分やグループの考えが妥当なものであるかを考えさせる。 <p>態① 交流を通して様々な訳文の表現の仕方に対する自分の考えをまとめようとしている。</p> <p>知① 文章中の表現に着目し、言葉の意味を抑えながらそれぞれの訳文の良さを考えている。</p>
	<p>【各訳文の違いとその良さの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 竹内氏の「昔の艶のいい丸顔は、今では黄ばんだ色に変わり」は、駒田氏の「以前の紫色の円い顔は、いまではくすんだ黄色に変わり」よりも、昔の「ルントー」の健康的な様子が伝わり、分かりやすい。(1) 竹内氏の「私は感激で胸がいっぱいになり、しかしどう口を聞いたものやら思案がつかぬままに」は、藤井氏の「僕はこのときうれしさのあまり、何と言ってよいのかわからず」よりも、以前とは変わってしまった「ルントー」の様子に戸惑う「私」の様子がより強調される。(2) 藤井氏の「閨兄ちゃん」は、「ルントー」の方が「私」よりも年上であることを明らかにするため、年下である「私」に「だんな様！」と言う「ルントー」がより身分差を意識する存在であることを読み手に印象付ける。(2) 藤井氏の「水生、旦那様に叩頭の挨拶だ」から、封建的な社会に拘る「ルントー」を印象付けることにより、より「私」がこれからの世代に新しい生活を持ってほしいという希望により強く繋げることができる。(3) 		
	5. 訳文を選ぶ上で手掛かりとした視点を整理する。	7	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題の「優れている」とはどのようなことかを考えさせる。
終 結	6. 学級での討議や訳を選ぶ視点をもとにして、最終的に自分がよいと思った訳を選び、その理由をまとめる。	5	思① 討論を通して、物語の展開や人物の設定などと関連付けながら、優れていると思う訳文を選んでその理由を学習シートにまとめている。
	7. 本時を振り返る。	5	<ul style="list-style-type: none"> 本時が、「発見」「変化」「強化」「疑問」のうち、自分にとってどのような一時間であったかを振り返らせ、全体で交流させる。

5 参考文献

- ・ 魯迅／駒田信二訳（1998）『阿Q正伝・藤野先生』講談社
- ・ 魯迅／藤井省三訳（2009）『故郷／阿Q正伝』光文社
- ・ 藤井省三（2011）『魯迅——東アジアを生きる文学』岩波新書
- ・ 田中成行（2013）『『故郷』を読み直す。閩土はなぜ「旦那様」と言ったのか。竹内好訳「感激」と「興奮」を比較して』東京学芸大学附属小金井中学校研究紀要第49号
- ・ 河野庸介（2010）『国語科授業にスリルとサスペンスを』教育出版